

11月例会「モリのいる場所」(山崎努・樹木希林主演)

17周年記念特別例会

17周年記念事業／特別例会

ふだんは、会員対象の映画鑑賞会である例会を、一般の方も有料で観ることができる特別例会について、2019年度は17周年記念事業として11月に実施いたします。

会員の皆様には、特別例会の実施にあたり、チラシの配布やクチコミなど、会員以外の皆さんにも、ご来場いただきますよう、ご協力お願いいたします。



例会のお知らせ

■名称／第105回特別例会『モリのいる場所』

■日時／11月14日(木)

①AM 10:30-、②PM 2:30-、③PM 6:30-

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／モリのいる場所

■監督／沖田修一

■出演／山崎努、樹木希林、加瀬亮、吉村界人、光石研、青木崇高、吹越満、池谷のぶえ、きたろう、林与一、三上

博史

■データ／2018年、日本、99分、ドラマ

■ジャンル／ヒューマンドラマ

■解説・ストーリー／直2017年に没後40年を迎え、再び注目を集める伝説の画家・熊谷守一(モリ)とその妻・秀子の晩年の暮らしぶりを山崎努と樹木希林の共演で描いている。監督は「南極料理人」「横道世之介」の沖田修一。

昭和49年の東京。94歳になる画家のモリは、30年間自宅の小さな庭を探検し、草花や生きものたちを飽きもせず観察し、時に絵に描く、まるで仙人のような毎日を送っていた。結婚生活52年、76歳の妻の秀子との生活は、味わいを増した生活道具に囲まれ、暮らし上手な夫婦のところには、呼んでもいないのに人がひっきりなしにやってきて大忙し。

そんな二人の生活にマンション建設の危機が忍び寄る。陽がささなくなれば生き物たちは行き場を失う。慈しんできた大切な庭を守るため、モリと秀子が選択したことは……。

私の映画KAN

「バジュランギおじさんと、小さな迷子」

なかなか題名が覚えられないが、インドの大スターと若干6歳の少女が織りなす国と宗教を超えた人間愛が、笑いと涙で描かれています。インドで迷子になった声を出せないパキスタンに住む少女が、インド青年に助けられる。親元に送り届けようと思った青年が少女と2人で旅に出る。イスラム教徒の少女、青年はヒンズー教、パキスタンとインド歴史的な両国の対立なかで波乱と苦難の連続の旅が始まります。少女役のハルシャリーがの豊かな表情としぐさがとても心をほっこりさせてくれました。インド映画は踊る!!それも見どころでした。例会では是非見たい映画ですが、あまりにも長いので断念せざるをえません。でも2回上映で考えてみましたが、あのパイプ椅子で2時間40分はつらいですよ〜。(山本和)

■題名／バジュランギおじさんと、小さな迷子

■監督／カビール・カーン

■出演／サルマーン・カーン、ハルシャリー・マルホトラ、カーナ・カプール

■2015年 インド 159分

運営委員会からのお知らせ

秋も深まり、紅葉の季節がやってきました。

うれしいはずが、10月より消費税が10%になり、郵便料金・フィルム料等が値上がりし、ますます財政は厳しくなる一方です。郵便局自動払込み事務手数料が1件25円から54円に値上げされたため、経費節約対策の一つとしてみなさんに納入方法変更のご協力をお願いしたところ、沢山の方が応じてくださりました。計算をしてみたところ、年間約13,000円の節約となりました。また、2回払いの方は10/20に3000円を引き去りさせていただきました。会費納入方法変更へのご協力ありがとうございました。

先日、来年70周年を迎える神戸映画サークル、10周年を迎える明石シネマクラブと意見交換会を開きました。神戸映画サークルは、毎月例会で約630名。サークル会員と個人会員そして当日会員で構成されています。上映する映画のテーマに沿った講師を呼んで学習会を毎月必ずしているそうです。機関誌も8ページ10ページと映画評論やコラムなど多彩な内容です。明石シネマクラブは、偶数月に例会を開き、私たちとほぼやり方や会員数は変わりません。が、夜をやめて午前を作り、若い人に訴えようという意見や夜は働いている人には必要でやめることはできない等々の意見が出されました。私たちも厳しい財政ですが明石と交流をすることで年間6000円の会費を払えば、加古川と明石の両方の例会に参加することができるという利点があります。お互い会員制映画鑑賞クラブとはいえ、それぞれ組織人数ややり方が違い参考になるお話も多く、作品を選ぶ参考にもなるので今後も意見交換会を続けていくことになりました。

次回「モリのいる場所」11月14日は、特別例会ですのでいつもより混雑が予想されます。整理券を配布しますので、会員さんも同じように並んでいただきます。午前の部が多いと思われるので、できるだけ午後にお越しくさるとうれしいです。また、受付・誘導・会場整理・チケット販売等でたくさんの方がが必要です。お手伝いいただける方は、連絡ください。午前は9時集合 午後は1時集合です。ご協力よろしくお祈りします。

加古川市民会館での上映会の予告

「あの日のオルガン」上映会

12月14日(土) ①14:30~ ②19:00~

前売り券1100円を11月例会時に販売します。参加目標1000名ですので、お友達誘って是非参加ください。

前回例会の報告

9月18日の例会は、第二次世界大戦中のポーランドのワルシャワ動物園で、ドイツ軍の占領の中で、動物園を隠れ家にして過ごした夫婦を描いた『ユダヤ人を救った動物

園』を鑑賞しました。ストーリーも映像も良質で、参加者にも好評でした。

参加会員110人、明石シネマクラブからの参加者8人、計118人の参加者でした。

明石シネマクラブ第58回例会情報

■名称／『教誨師(きょうかいし)』

(2018年、日本、114分)

■解説／大杉漣の最後の主演映画で、最初で最後のプロデュース作品。



死刑囚と対話する教誨師である牧師の佐伯は、半年前に着任したばかりの教誨師。彼が面会するのは年齢、境遇、性格の異なる6人の死刑囚は、どこかで道を誤ったり、ちょっとしたボタンの掛け違いによって取り返しのつかない過ちを犯した人々。他の受刑者と顔を合わせることなく、家族にも縁を切れ、独房で孤独な生活を送る彼らにとって、教誨師はよき理解者であり格好の話相手。人間の心の底を考えさせられるヒューマンドラマ。

■監督・脚本／佐向大

■出演／大杉漣、玉置玲央、烏丸せつ子、古舘寛治、三石研

■日時／12月11日(水)

①PM 2:00-、②PM 4:30-、③PM 7:00-

■場所／アスパア明石 9階子午線ホール(JR明石駅徒歩5分)

■目的・内容／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付／会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662 (金沢)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kalogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

会員数146人(9月18日現在)